



徳田 安春, 岸本 暢将, 森 雅紀●著

『メディカルポケットカード プライマリケア』

書評者

岩田健太郎（亀田総合病院総合診療・感染症科部長）

アメリカの研修医はアンチョコが大好きである。サンフォードガイドやワシントンマニュアルに代表されるマニュアル類。VINDICATE-P, CAGE, PECOといったアクリニム（頭字語）。「A型肝炎だけが、ウイルス性肝炎でspiking feverを起こす」、なんていう含蓄に満ちたメディカルパール（箴言）。そしてpalm pilotなどのPDA。アメリカの研修医のポケットにはたくさんの知識の元が詰まっている。

ポケットカードも、彼らのお気に入りのひとつである。1枚のカード、表裏にびっしりと情報。その科をローテートしているときにポケットに携えておけば、パッと取り出してさっと読める。破れないし、濡れても大丈夫。ちょっと長めで、少しポケットからはみ出すぐらいのほうを取り出しやすい。

と、効能の多いポケットカードであるが、ついに日本でもデビューである。それが、「メディカルポケットカードプライマリケア」。

著者は臨床の酸いも甘いも知り尽くした徳田安春先生、岸本暢将先生、森雅紀先生の3氏である。「不安定狭心症の診断基準」、「急性腎不全の鑑別の方法」、「市中肺炎のPORTスコア」、「INRが跳ね上がったときのワーファリンの拮抗方法」など、診療現場で実際に役に立つ、うろ覚えだけど厳密には覚えていない、いつもは覚えているのに、いざというときに出てこない、でもすぐに引っ張り出したい、こんな情報が満載である。

こういう類の情報は、パソコンベースの検索エンジンよりも「ここに書いてある」とトポロジ的に把握するほうが便利である。ポケットカードは臨

床現場で活用度の高い優れたものである。おまけに「本カードの特徴」として、「弊社『レジデントマニュアル』シリーズ等、ポケットサイズの書籍の葉としても活用できます」なんて書いてある。さすが医学書院、ちゃっかり商売上手である。

いざというときに必要な知識を取り出したい。医学知識は指数関数的に増大する一方であり、暗記しようとぶつぶつ事物を唱えても追いつかない。だから、暗記暗記とぶつぶつ唱えるのは止めにしよう。ポケットにカードを入れ、歌でも口ずさんでいればいいのである。



頁 48 2007 年 医学書院刊
定価 3,360 円（本体 3,200 円＋税 5%）
[ISBN978-4-260-00291-2]